

「第 9 回医療の質・安全学会学術集会のシンポジウム」で
発表しました

平成 26 年 11 月 22 日（土）の午後 1 時 10 分から、千葉市の幕張メッセ国際会議場で開催された第 9 回医療の質・安全学会学術集会のシンポジウム「総合診療医養成における医療安全に関する Public Health 的素養の必要性」において、私たちのプログラムを発表しました。

シンポジウムは、島根大学医学部地域医療政策学講座教授の廣瀬昌博先生が企画されました。廣瀬先生は、私たちと同じく、文部科学省の医療人 GP「未来医療研究人材養成拠点形成事業」に選定された「都会と地方の大学連携ライフイノベーション」プログラムのプログラムリーダーをされており、島根大学医学部附属病院の医療安全管理の仕事もされています。

わが国の医療安全は、専門医や ICD 制度に匹敵する制度がなく、医療安全管理学なる学問的位置づけがないまま、現在に至っています。医療安全管理を志す医療人は、地域包括ケアをフィールドとしてその課題を自ずから抽出し、それを解決する研究を遂行できる能力-リサーチマインド-を涵養することが重要ですが、わが国ではその素養を涵養する機会があまりありません。そこで、「都会と地方の大学連携ライフイノベーション」プログラムにおいて、総合診療医を目指す若手医師が、従来の実践的医療安全管理から脱却し、学術的医療安全管理の素養を身につける機会としたいという思いから、このシンポジウムを企画されました。



シンポジウムでは、各大学や文部科学省、日本医療機能評価機構でそれぞれの立場から医療安全管理に携わっている先生方からの発表がありました。いずれの先生からも医療安全管理の学問的素養の必要性、臨床現場での対応で手一杯となっている現状とのジレンマを話されていました。

当方からは、プログラムでは、新潟の中山間地域でのソーシャルキャピタルをはかる大規模アンケートを施行予定であること、プログラムは医療安全管理のリサーチマインドの涵養に必要な分野と目指す方向が近く、医療安全管理を志す医療人にもリサーチフィールドを提供できるのではと提起させて頂きました。

今後、当プログラムを通して、何らかの形で医療安全管理を志す医療人のスキルアップ・リサーチマインドの醸成に貢献できればと考えております。

13:10～15:10 シンポジウム 5

座長：廣瀬 昌博（鳥取大学医学部地域医療政策学講座 / 同附属病院病院長医学教育センター）
兼元 敏浩（三重大学医学部附属病院 医療安全・感染管理部）

総合診療医養成における医療安全管理に関する Public Health 的素養の必要性

- 1 課題解決型高度医療人材養成プログラム
－医療安全管理等を担う医師の養成を目指す取組－の概要
○市村 尚子（文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室）
- 2 医療事故、ヒヤリ・ハット事例の収集・分析と活用による医療安全の向上について
○後 悠^{1,2}（¹九州大学病院、²公益財団法人日本医療機能評価機構）
- 3 自治医科大学学生に対する医療安全教育
○長谷川 博¹、吉田 勝²、鈴木 義彦³、浅野 義和⁴、河野 聖太郎⁵
（¹上尾中央総合病院、²自治医科大学医療安全対策部、³自治医科大学メディカルシミュレーションセンター）
- 4 「オール新潟による「次世代医療人」の養成」プログラムの取り組み
○藤澤 純一¹、津口 浩太郎²、朝川 勝明³、黒川 亮⁴、鈴木 翼⁵、吉嶺 文俊⁶、小川 洋平⁷、黒川 光⁸、
高瀬川 由輝⁹、鈴木 栄一¹⁰、長谷川 義志¹¹
（¹新潟大学医歯学総合病院医師キャリア支援センター、²新潟大学大学院医歯学総合研究科総合地域医療学講座、
³新潟大学大学院医歯学総合研究科国際保健分野（公衆衛生）、⁴新潟大学医歯学総合病院医員総合診療部）
- 5 地域包括ケアに貢献する総合診療医に求められる医療安全管理の資質と教育
○岡田 雅信^{1,2}（¹神戸大学大学院地域医療教育学部門、²自治医科大学地域医療学センター-地域医療学部門）
- 6 総合診療医に求められる医療安全管理の資質：
“実践的医療安全管理”から“学術的医療安全管理”への実践
○廣瀬 昌博（鳥取大学医学部地域医療政策学）

